

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

私たちの身近にも

多摩市立東愛宕中学校

三学年 高木 咲弥

三・一一、このことは記憶に新しいでしょう。最大震度七を記録し、それに伴う津波で

福島第一原子力発電所事故が起き莫大な被害をもたらしました。私は当時二歳で東京に住んでいたので記憶に残ってないですが、後からテレビで津波に飲み込まれ町が無くなった映像は沢山見てきました。最初に知った時はこの状態から住めるようになるのかと思っていました。震災から十二年経ち、姿を取り戻してきているのを最近見ました。そこで、何のお金で復興ができていいのか疑問に思いました。また、津波に流され何も無くなってしまった町の状態から住めるようになるまで復興できているなら、普段私達が利用している道路や公共施設なども税金が関わっているのか疑問に思いました。

そこで、どのくらいの予算で復興しているのか調べたところ、東日本大震災復興経費が七千三百一億円で組まれていたことが分かりました。これで福島第一原子力発電所事故による汚染の廃棄物処理や除染、道路、防潮堤、公共施設の復旧などに使われているそうです。こうして現在は徐々に町に住めるようになってきました。なので現地に残っている被災者の方々の声を調べると、「町から離れてしまった人が多いからその人たちを呼び、若い人たちでさらに町を盛り上げていきたい。」というのがあり、とても印象的でした。また、普段

利用している道路は毎日人や車が通り傷ついているため、定期的に修理が必要ですが修理するお金が無いので、修理代に税金が使われていたり、公園など公共施設の整備、災害に強く便利性の高い都市に向け橋などの耐震化、港の整備、無電柱化の推進など公共事業にも税金が使われたりしているそうです。

税金は私達に身近ではないから何に使われているのか知りませんでした。しかし、学校に通う時、買い物に行く時など外に出ると普段当たり前に利用している至る所が税金で作られ、直されていることを知り、私たちが生活するためには必要なものだと学びました。だから、将来しつかり税金を払い私達の生活のためになれば良いと思います。